2つの和楽器が導く、つながりの道

鈴木 臣吾さん

「122番、始めてください」。舞台上で座る一人の男性にライトが当たり、三味線の演奏が始まります。全国津軽三味線コンクール（4月・大阪）に出場した鈴木臣吾さん（39歳）。はつらつとした糸の音は、勇壮でありながら情感にあふれ、鈴木さんは一般男子の部で優勝しました。

その後の世界大会（5月・青森）でも団体部門で優勝した名奏者ですが、大会への出場を「自らの成長のための通過点。嬉しいですが目標ではないんです」と言い、三味線の魅力を「所作や考え方など、すべてが生き方に通じるところ」と話します。

小学5年の頃から和太鼓を続け、高校時代はギターを弾きバンド活動も。津軽三味線との出会いは18歳のとき。音色はもとより、右手のバチさばきと左手で「ツボ」を押さえる勘所（かんどころ）を学ぶうちに、すっかり魅了されます。太鼓と三味線を続けながら、保育士として働いていた28歳の時、プロの太鼓チームへの転職を決め、全国ツアーなどに参加し始めます。そこを襲ったのが新型コロナでした。

すべての演奏会が無くなり、転職を余儀なくされる仲間も出る中、鈴木さんも太鼓を断つ覚悟をします。チームの仲間から紹介を受けたのは、庭師の仕事でした。職場に恵まれ、面白さを感じながらも、鈴木さんを音の世界につなぎ続けたのは三味線でした。4年で音楽の道に戻る目標を立て、地道にライブを続けます。

コロナが収束しライブ活動も順調になり、音楽の道での目途が立った鈴木さんに、再び太鼓への思いがあふれます。そして自らの和太鼓チーム「和郷会」を編成。現在は70人を率いる大所帯となっています。また、世界の楽器を自在に操る打楽器奏者と鍵盤奏者に出会い、3人のユニット「鈴木臣吾The Beaks」としての活動も開始。三味線・ジャンベ・バンドネオンなどのジャンルを超えた異色の取り合わせは、力強い音楽となって、見る人を元気付けます。

「演奏の一瞬一瞬に心底夢中になることが、最高の響きをつくるんです」と話す鈴木さん。信頼する仲間とともに、さらに自分を磨き、周囲に活力を届けていきます。

▶6月14日にアローブでコンサートを開催します。詳細はアローブウェブサイトへ。

cover 大倉公園で「春のいきもの観察会」を開催し、参加した親子らは、公園で暮らす昆虫や水辺の生き物を、トレイや虫かごに入れて観察しました。ダンゴムシやヌマエビなど約20種類を見つけ、豊かな自然や生物多様性への理解を深めました。

広報おおぶ 2026. 6
2026年6月1日発行 No.1263
QRコードは㈱デンソーウェーブの登録商標です。
■発行/大府市 〒474-8701 愛知県大府市中央町五丁目70 ■電話/0562(47)2111
■企画・編集/企画広報戦略課 ■メール/koho-obu@ma.medias.ne.jp ■電話/0562(45)6214 ■FAX/0562(48)4808 ■印刷/サンメッセ㈱